

思 い 出 ^(※1)中第 26 回卒 今 村 博 ^(※2)

私が相馬中学に入学したのは大正 12 (1923) 年 4 月です。入学の準備には菅又元之介 ^(※3) 先生の参考書を用いました。この頃はどこの小学校から 1 番で入学するかが話題になっていました。ですから 6 年生を受持つ先生方も受験勉強をさせるのに一生懸命だったようです。私の小学校は小高尋常小学校でしたが、紺野雄二郎 ^(※4) さんとか相馬胤敏 ^(※5) さんが中村第一小学校出をまかして 1 番で入学したことを受持の先生からきかされ、お前もしっかりやれと激励されました。

しかし私は 14 番で入学し、丙組となりました。出席簿は入学成績順に甲・乙・丙の 3 組に分配されていました。丙組は坂田慎三郎 ^(※6)・加藤政蔵 ^(※7)・佐々木為三・梅田広一 ^(※8)・今村博という順序でした。首席入学者は中村第一からの坂田さんだったのです。出席簿の上位 3 名が組の級長でした。そして机の位置は、教壇に向って一人が最前列中央に、他の二人がそれぞれ左右列の最後尾にありました。1 学期の学期試験の結果私が 3 番になり、坂田さんと加藤さんの順位が逆になりました。佐々木さんが転校されたので、私が 2 学期から副級長を命ぜられ最前列の正面に坐ることになったと記憶しています。

級長は始業時前に教員室に行き、出席簿と席次板とを教壇の机の上に運ぶ役がありました。先生が教室に入り教壇にたたれた時、当番組長は「起立・礼」と号令しなければなりません。予期していなかった級長になり、最初にこの「起立・礼」の号令をかける間合いにとまどいました。

5 年生の修身の先生は千秋校長 ^(※9) 先生でした。四角頭の背の低い先生でしたので“煙突”というあだ名がついていました。校長の修身の講義は面白くもおかしくもない謹厳そのものでした。私は 5 年の学期末試験時に風邪を引き受験することができませんでした。見込みの成績で番外の 2 番で卒業しました。番外の 1 番は梅田さんでした。ここでまた梅田さんに負けたわけです。梅田さんは梅田先生 ^(※10) のご長男でした。先生のあだ名は“樽”といわれていました。今の肥満児のようによく肥えておられ数学を担当しておりましたが、私どもはおそわりませんでした。代数の試験は最終日の 1 科目だけで熱もさがりましたので受験しました。

さて当時の成績表示は 1 等 (100-90)、2 等 (89-80)、3 等 (79-70)、4 等 (69-60) であったと思います。校長先生の修身のみが 4 等でした。4 等をはじめでのことであり、他科目の見込点は 3 等でありましたからしゃくにさわりました。松岡先生 ^(※11) の代数は驚いたことに全学期の代数の平均点が 100 点でありました。身勝手なもので松岡先生は 1 番いい先生であったと感謝するかたわら、煙突はいやな先生であったと今も思っております。

うまく特徴をつかんだ先生のあだ名があり、尊敬する先輩をゲンパチさんとか、クニキチツアンとかいっていた大正時代はロマンの時代であったのかもしれない。私は同級生から今でもハクサンと呼ばれております。

(※1) 創立 80 周年記念誌 『相中相高八十年』 (1978(昭和 53)年 5 月 7 日発行) 第四部「想い出の記」より。

(※2) 小高出身。

- (※3) 相中教諭兼舎監 1915 (大正4) 年~1923 (大正12) 年在籍。
- (※4) 森 (紺野) 雄二郎 相中第22回、1924 (大正13) 年卒 小高出身。
- (※5) 相中第23回、1925 (大正14) 年卒 小高出身。
- (※6) 相中第26回、1928 (昭和3) 年卒 中村出身。
- (※7) 相中第26回、1928 (昭和3) 年卒 中村出身。
- (※8) 相中第26回、1928 (昭和3) 年卒 上真野出身。
- (※9) 千秋穂一郎、1921 (大正10) 年~1929 (昭和4) 年在籍。
- (※10) 梅田政治郎、教諭兼舎監 1916 (大正5) 年~1930 (昭和5) 年在籍。
- (※11) 松岡金助、教諭兼舎監 数学/理科 1913 (大正2) 年~1932 (昭和7) 年在籍。

(転記&※脚注 村山)